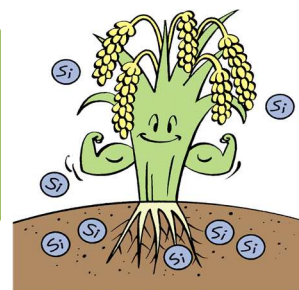


生育状況に応じた
水管理・中間施肥で強い稲姿に



1. 特栽米コシヒカリ生育調査結果(6月10日現在)

田植日(5か所平均): 5月10日

項目	今年値	前年比	指標値比・差	※調査について
草丈(cm)	27.7	91.4%	106.5% (やや長い)	【草丈等数値】 北越後管内定点調査ほ5か所平均値 【指標比・差】 5月10日以降の適期移植の理想生育との比較
茎数(株/本)	13.3	95.1%	103.8% (平年並み)	
葉数	6.4	-0.1葉	±0葉 (平年並み)	
SPAD	35.6	102.4%	101.8% (平年並み)	

6月初旬までの好天により、分けつ発生が進み茎数は増加傾向ですが、生育は概ね平年並みです。地水温の上昇により、湛水状態のほ場ではワキの発生で根の発育が阻害され生育が停滞しているほ場が散見されます。湛水中であっても夜間落水、水更新など間断かん水で根に酸素を供給しましょう。

2. 中干し後～幼穂形成期の水管理

中干しは遅くとも出穂の1ヶ月前までには終了しましょう。

(早生品種で6月20日～25日、コシヒカリで6月25日～30日頃)

中干し終了後は、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努める必要があるため飽水管理※1を実施しその後徐々に湛水管理へ移行しましょう。

中干し終了直後の水管理は酸素と水の供給を交互に繰り返し、根の活力を維持します。この時期は地表に近い根が細く枝別れして綿毛のようなうわ根が発達します。間断かん水によりうわ根をしっかり張らせることにより養分などを盛んに吸収できるようにし、出穂以降の登熟や下葉の枯れ上がり防止、倒伏防止につながります。

(急激な灌水は根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上がりが生じる原因となる可能性があります。)

※1「^{ほうすい}飽水管理」とは

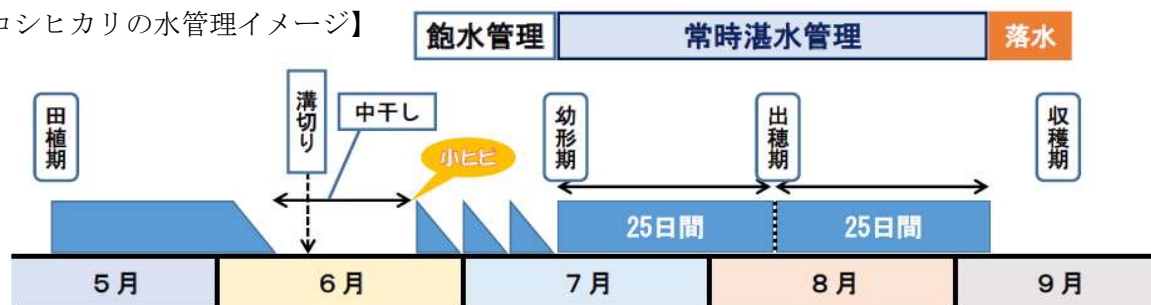
自然に水が減り、田面に水が無くなり、溝や足跡に水が溜まっている状態のときに、再びかん水することです。



このような状態になったら、かん水しましょう。
用水が輪番制の地域では、この状態より
乾かないよう注意しましょう。

カドミウム吸収抑制対策として出穂前後25日間は湛水管理を実施しましょう。

【コシヒカリの水管理イメージ】



<参考情報>新発田地域コシヒカリの出穂期予測について

コシヒカリの出穂については平年より2日早い見込みです。

新潟県農業総合研究所

3. 中間追肥

ケイ酸は全吸収量の9割が水稻生育の後半の幼穂形成期以降に吸収されます。

中間追肥の大きな目的は、稲体を強くするとともに根の働きを良くし、穂肥のやれる稲姿にすることです。ケイ酸やカリを中心に積極的に散布しましょう。

施用時期：6月下旬（出穂の40日前頃）～

【期待できる効果】

- ①光合成の促進、②根の活力向上、③受光態勢の改善、④耐倒伏性の向上、⑤耐病虫性の向上、⑥異常気象時の品質低下軽減

●上記の総合的な効果として、玄米収量を増加と米の品質向上が期待出来ます。

👏 おすすめ肥料

	品名	容量	特性
中間追肥	けい酸加里プレミア34	20kg	茎が丈夫になり倒伏軽減になる。収量・品質向上 【出穂40日前頃 20kg/10a】
	マルチサポート1号	20kg	登塾を良好にし、食味向上が期待できる 【出穂40日前頃 20kg/10a】
	ファイトアップ	500g	根の充実で倒伏軽減・品質・登塾の向上 ※投込み剤 【出穂40日前頃 500g/10a】
	スーパーシリカ・プレミアム	20kg	倒伏軽減・高温障害の低減が期待できる 【出穂40日前頃 20kg/10a】
	ウォーターシリカ	15kg	倒伏軽減・登塾・品質の向上 ※水口流入可能 【出穂30日前頃 15kg/10a】
	K S K 28	14kg	液体ケイ加里肥料 幼穂形成期以降に1.4kg/10a 水口施用

4. 病害虫防除

〈いもち病〉

- 現在管内で葉いもち病の発生は確認されておりません。
- 未だに補植苗が散見されますので、速やかに撤去してください。

〈斑点米防止対策カメムシ〉

・管内予察調査で、カメムシ多発生地域が確認されており、今後も第2世代の急増が懸念されます。

カメムシの住処を減らすため草刈りを徹底しましょう。

■草刈り重点推進期間【第2回】

6月22日（月）～7月1日（水）

※遅くとも7月末までに草刈りを終了しましょう。



■農道・畦畔一斉防除期間

7月4日（土）～7月6日（月）

※農道・畦畔への除草剤使用は周囲作物等へ絶対に飛散しないよう、十分注意し散布しましょう。

地域一斉防除計画に基づき病害虫防除を徹底しましょう。